

先日、初雪（写真1）がありましたが、路面の凍結はありませんでした。園内の紅葉は大半が散り、遅い紅葉がわずかに残っている程度です。花ではツバキ類や十月桜が見られます。

★見どころ情報

子福桜（サクラ品種）（写真2左）

サクラの品種で「コブクザクラ」と読み、今年新たに植栽しました。春と、秋から冬にかけて開花する二季咲きで、カラミザクラとコヒガンから生まれたと考えられています。花弁は八重咲きで白色を帯びていますが、散る前になるとピンク色になり、まるで2色の花が混じっているように見えます。名前の由来は、1つの花に雌しべが1~5本つき、複数の果実をつけることに困みます。同じ二季咲き品種の十月桜は花色がピンク色で、くびれた壺形の萼筒を持ちますが、本種の萼筒は盃形で、カラミザクラの形質が見られます。

場所：見本園入口

タマミズキ（玉水木）モチノキ科モチノキ属（写真2右）

静岡県以西の常緑樹林内に自生する落葉高木で、国外では台湾、中国中南部まで広く分布しますが、目にするのはやや稀です。林内が明るくなると急速に成長して林冠まで達します。まっすぐに伸びた幹とほぼ水平に伸びる枝をもち、5,6月に新枝の葉腋に花序をつけ、緑白色の花を咲かせます。秋に落葉すると、直径3mm程度の小さな赤い果実がよく目立ちます。タマミズキの名はミズキに似た樹形と果実が美しいことに困みます。

場所：車庫横

ヤブツバキ（藪椿）ツバキ科ツバキ属（写真3左）

艶のある葉「艶葉木（ツヤハギ）」がツバキの語源とされています。ヤブツバキは北海道を除く日本全土の山林に自生する常緑高木で、11~12月と、2~4月に赤い花を咲かせます。花弁は5枚で、白色や絞り、八重咲き等の品種が多数流通しています。類似種のサザンカは、雄しべの花糸が1本1本離れており、子房は有毛ですが、ツバキの花糸は基部から半分くらいまで合着し、子房は無毛です。また花の散り方にも違いがあり、サザンカは花弁が1枚ずつ散るのに対し、ツバキは合着した花糸とすべての花弁がまとまって落ちます。

場所：園路沿い山林内他

ツバキ園では数種類のツバキ品種が開花しています。花付きのよい2品種を紹介します。

菊月（写真3右上）

「キクヅキ」と読み、濃桃色に底淡色ぼかしに一重咲の品種で、開花期は12～3月です。

一子侘助（写真3右下）

「イチコワビスケ」と読み、開花期は11～3月です。ヤブツバキの枝変わり種で、侘芯（ワビシンと読み、雄しべの葯が白く退化したもの）ツバキの第一号新種です。お茶席によく利用されます。

緑化センターホームページ (<http://ryokka-c.jp/>) に開花・紅葉・きのこ発生状況を掲載していますので、ぜひご覧ください。また園内にも、各月の開花マップがありますので、来園の際にはお立ち寄りください。

開花等の詳細は緑化センター管理事務所（082-899-2811）へお問い合わせください。

★園内見どころ情報まとめ

開花	ヤツデ、子福桜、十月桜、乙女サザンカ、ヤブツバキ、タチカンツバキ、シキミ（返り咲き） 他
結実	コムラサキ、タマミズキ、トキワサンザシ、クロガネモチ、シロダモ他

※広島県緑化センターの植物分類は従来のエングラ体系から、DNA解析によるAPG体系へ移行準備中です。データベースの移行が完了次第、メールマガジンもAPG分類体系で配信する予定です。準備が整うまで今しばらくお待ちください。



写真1 初雪（管理事務所周辺） H27.11.27



写真2左 子福桜（見本園入口） H27.12.1



写真2右 タマミズキ（車庫横） H27.12.2



写真3左 ヤブツバキ（管理事務所上三叉路） H27.11.27



写真3右上 菊月（ツバキ園） H27.11.28



写真3右下 一子侘助（ツバキ園） H27.11.28